

～もっと知りたい 遊牧と草原の国 キルギス共和国～



ユルタ 組立て・解体 ワークショップ



組立て	令和2年 12月8日(火)
解体	令和2年 12月13日(日)
会場	生涯学習センターゆとろぎ 展示室
主催	羽村市・羽村市教育委員会

ユネスコ無形文化遺産に登録されたキルギスの組立て移動式住居

ーボズユイー（ユルタ）について

キルギス民族がかつて遊牧生活を営んでいたため、その生活様式に欠かせなかったのは、伝統的な組立て移動式の住居であった。遊牧民族の移動式住居を中国語では「パオ」、モンゴル語では「ゲル」、カザフ語では「キイズユイ」、ロシア語では「ユルタ」、キルギス語では「ボズユイ」と言う。

キルギス語の「ボズ」は「灰色」、「ユイ」は「家」という意味で、昔は一般の遊牧民は、ユルタの骨組に被せるための高級なフェルトを使うことができず、そのために羊毛の黒と灰色の残物を使っていた。ハーンや貴族だけが自分のユルタに真っ白の羊毛を使い、その住居を「アック・オルゴ」（白いユルタ）と言っていた。

キルギスのユルタは、モンゴルとカザフのものより大きくて高く、直径でおよそ5m、高さは3～3.5mになる。キルギスの移動式住居は、それぞれ名前のある様々な部分から構成されているが、最も重要な部分が骨組、ドアと天井の天窗である。ユルタを組み立てるには、まず敷居を建て、それにドアを取り付ける。その後、ドアの両側から円形に骨組（壁）を取り付け始める。円形の天窗は、骨組と数本の少し曲がった長い棒を使って、取り付けられる。最後に、ユルタ全体に羊毛で作ったフェルトを被せ、紐や縄で結びつける。組立て時間は、およそ一時間である。

天窓は、キルギス語で「トゥンドウック」と言い、キルギスのシンボルとも言うべきもので、キルギスの国旗にもデザインされている。「トゥンドウック」の真下にかまどが置かれるため、天窓が煙突の役割も果たしている。雨や雪が降るときは、天窓がフェルトで覆われる。

ユルタの中の配置には決まりがあり、入り口の反対側（正面）には日本における上座の概念と共通する、お客さんや尊敬すべき者だけが座る位置が決まっている。入り口から入って、ユルタの右側は女性用（エプチ・ジャック）で、食器や炊事用具の保管場所である。左側は男性用（エル・ジャック）で、本来、狩猟用具や馬具等を掛けていた。

現在、キルギス人の中では、一年中遊牧生活を営んでいる者はまったくいないが、夏場だけ山々の牧場に家畜の放牧に出かける人は少なくない。その時は、ユルタが広く活用される。その他にも、ユルタは現在でも、大きなイベントや葬式の時に、幅広く使われるのである。

（在日キルギス共和国大使館 Facebook より転載）

それでは、組立ててみましょう！

次ページ以降は、令和元年8月14日から18日まで羽村市生涯学習センターゆとろぎ展示室で行った「キルギスの伝統や暮らしが感じられる展示」にあたり、令和元年8月13日にキルギス共和国男子柔道ナショナルチームに協力をいただきユルタを組立てた記録です。

ユルタの部品



骨組みを円形にする
※円形を正確に描いて組み立てる。



骨組みを円形にする
※入口を南側に設ける。



骨組みをしっかり縛る。





壁面の骨組完成。



キルギス国旗にも描かれて
いる天窓部分を中心に据える。



天窓部分の穴に棒を差し込む。





棒の下の部分をしっ
かりひもで縛る。



骨組みが完成したら
ひもを骨組みに縛り、
補強する。



腰布部分を取り付け、
入口を閉じる。



屋根のフェルトを乗
せる。



屋根のフェルトは上から引きずり上げ、下から棒で上げる。



飾りをつける。



完成

